

大正十年四月九日

市政に就^々て

(未完稿)

目

次

市政の現状
東京市と特別市制問題

勢力協調と自治の本尊

東京市の自治に對する余の期待

浪費政策に對する後藤式節儉法

調査機關設置の必要

余が就任の覺悟

社會局に就いて

道路局と就いて

市民と要する了解

名譽職と小學教育

任免と関する方針と所見

健全化と市役所氣質と養成

小學校職員の進退と就いて
小學校の増設に就いて

東京市と経費問題

浪費政策改善の第一步

東京市の財源問題

糞尿處分に就いて

應急策

糞尿問題を關する一考察

結論

以
上

百
六

市政の現状

東京市の市政の全体を一言で評すれば、互に聯絡を欠き不規律を極め浪費政策の弊は隔て居る而も将来のためには縦縦を立つべき補査を缺いて唯一はを糊塗するに過ぎずは、總に在る所あり而して全般の東京市の市政が不統一を極め且つ互に聯絡を缺くが生ずる弊害は種々の方面に於て現はれてゐるが、其の著しきものは

（一）市吏員と市會議員との疎隔、甚しきには市長と市會議員との市吏員の互に相對峙し、或時は互は強と敵國の如き感を以て目撃視するに至る所である

是れ自ら体とて有るより現象であつて、或者は此弊は兼し不正の結托を為すに至るのである

（二）市役所内の各機關が互に必要な聯絡を缺き居る所ために生ずる弊害は、例へば地下埋藏物の系統の如きが頗る乱脉であつて、上水課と下水課及電気局との間に設計上の交渉もなく、又た着手の上に打合せなく、権利争の時いた種を烏かほち

くの底の思ひを敢てアーティスト、即ち道路課の立場から言へば同課の事業は悉く此等の他の課のために妨げらるることになつてゐる、上下水の兩課から論ずれば又た道路課のために同一ト やうな事業上の妨害を受けることもあるのである、電気、電信、電灯、瓦斯の如きに至つては市役所外のことであるから、聯絡交渉、折衝を一層甚だしく缺きることとは茲々言ふまでもなく

之に對して世人も當局者も道路と電車とは互に相殺するものであると思考して遂に佐ま

四 さう取扱と成つた、併此等の不統一と聯絡の缺如とは悉く浪費政策に階る原因と断言して得らんのである

（三）市内の各區役所相互間、並に、市役所内の各機關の聯絡交渉の如きも頗る不完全なつたのみならん、また甚ば相互の間に於て他の機關の失態は昌ち自己の利害又關係を刀をもつて攻撃されることもあり、之を對岸の火災視も冷笑を以て之を近づけるか如くもある、如何に聯絡缺如の弊害一に於て到るかと思は

(四)

監督官廳の監督の法令の上に單に欠
缺あることは年來の弊害であるが、其法令上
の監督すらも不完全なると免れないのが昨今
の形勢である、東京府と東京市は須らく一致
の態度を執るべき筈に一致に均られ、屢々
相軋轢して矢張相互相殺の弊に陥つてゐる、
これがは唯監督官廳と被監督者たる自治体
が間に於ける疎隔に止まるなり不向に附する
が不可たりてあらか、浪費政策に隔る弊を
察知せんやである、殊に東京府の地方税支
出額は大部が東京市民の負擔と歸する
のである、東京市は市自身の浪費政策に
隔りて尙又た監督官廳より東京府から之
を矯正せんとは為さずむしろ却て之を助長せ
りてゐる、若な東京都自ら其主動体と成つて
東京都をもくらめ動的に之を引受けしめ、
東京市をもくらめを避くに遙かにうしも居、
此事たゞや歴々之を事実の上に織りへき
ものがあるにあらず、勿論既往ニ屬すことは
敢て咎めないが、将来の事を論ずるにあらず
例へば今後の平和博覧會の計画の如き並
此恨みなき能をすである、

五

六

金は既ニ其計画豫算の編成の可否を論ず
るものであるが、蓋し府の豫算の通りに実
行覽來ないことは今より少からずいたことであ
る、隨つて差し此計画よりして假に數百万
円の損失を生じたといたならば、何人か之を
負擔するの責に任すものあるか、蓋し其場合
は東京市民の負担と歸すことは茲ニ
論ずる所ではないのである、此矣ニ就いて東京市
會議員諸君中には既ニ思ひと様して居る者も
あれば、東京市選出の府會議員至つては
更に顧慮する者もないのである、府令の決

八議と云ふ法的のものなれば故に市民は之を
賛成すべく、又其負担に任すべきものである
ところから大きな勢力を執つてゐる、これ實に
現在の形勢であつて、併し此形勢より一歩み
れば、市府の間ニ大きな弊害を生ずるこ
とは豫言し得るものである

市政の現状に対する余の所見
もしくは聯続とか統一とかの不備不完全を感
得する、心意上の程度は、各自の有する行方
の厚薄如何に依つて主觀的相違はあるもの
である、換言すれば聯続統一を理解する者

自の智識上の程度に依つて相違はあるもので
ある、文明國の都、市の現代的オルカニザチオンは
斯くあるへゝもの、聯続は斯くなければならぬ
ことを理想、信念の深浅厚薄に依つて、聯続
統一の不備不完全の批判の程度も亦自から
徑庭を生ずるのである而して全の常に懷抱す
所の現代的オルカニザチオンに對する信念、
聯絡統一に関する所の理想は実は卑近
低級のものである、然るに其卑近低級な了
不肖が觀察し乍ら其上の不備不完全を聯絡
統一の上に發見するのである、若しそれ高邁達
九

十 識の土に觀察せられたるは事々如何なる
断案を下さるゝか、蓋其感は不育
のそれすすむ更に峻烈なるものがあるに相違な
いと言するのである、此其に就き深く各位此
辯解と考察を求むる次第である

東京市と特別市制問題

備、東京府と東京市との關係は、既に述べては年々の懸案と成つてゐるものであるが、之を約言すれば特別市制の問題と附帶してゐる所の少ないのである、而も特別市制の問題は大都市は是亦制度論である、唯、一部では經濟論を、已むを得ず事實上に挟んで來るのであるが、是が為めに二重監督は不可であつて、直ちに内務大臣の監督下に属するやうにするが、良いと言つてゐる、余は之に對して敢て反對はしない、併ながら唯監督を変つたからと言つて果

十二

してどれだけ利益のあるかのを疑ひを存するのである、それよりは寧ろ市の經濟的發展と財政的效果とを五眼とす、制度改善を圖つた方が良策ではないかと考へる、現に東京府と東京市は二重の施設をしてゐる、甚たしきは競争的に施設をしてゐる、而して之が為めに生ずる負擔の大都市は東京市民に掛つてゐるのである、即ち相互の競争に依つて效果を納むるよりも、寧ろ其競争のみを即長して浪費政策の弊害の渦中に陥つてゐる、是れ皆を一般の目撃する事實であ

ろに拘らず偶々之を口にする者があつても唯
一場の居詰として空しく聽流し、而も甚為め
に如何す莫大なる損害を各自が被つてゐるか
と云ふ鳥の音にて的確に考慮する人が識
者の中すらも尠ないのは寧ろ不思議な
現象である、否な言て駄目だと思つて憂想
を盡かして黙つてゐるのも知れぬが、免
ト角東京市の「ポンキ」を描いて見たならば、
恰も底無し袋で金錢を投げ、財物を執り
ながら、市長も市會議員も市民も毫もし
底す、縛りがないこと、氣附かぬのと同じで

十四

ある、否な氣附いても底を縋らぬ意をも
のの如き繪が出来上りのではあるまいか

今現に六都市の特別市制に関する問題
がある、余は裏より言ふ如く敢て是れは反
対をするものでないが、東京市民としては
自覺の足らざるものである、又東京市民自
身の利害を言ふのでなくして、東京は帝
國の首都たりといふ点から考へて見ると、
此六都市が共同運動を依つて同一制度の
下に立たんとすることは、東京市民の為めに
立法する人々の首府の自治たるものか、國と

如何なる關係あるかと統いて考慮の足り
るものあることを證明するものではあらずま
いか、現に此計画などに統いては既に業に
國庫補助の率を同うして括らぬと云ふ
ことは、今日の如く都市研究の費達にな
い時代、於ては、經國家が達見以て此制を
定められたりと言はなければならぬ、又
今日の如く都市生活の不確實なる時代
於ては、更に都市の階級、従つて其制を異
することも理由があることである、且に實に
時代と場所より従つて其制を異にすること
五

其が必要なる計りではなし、指定に統いても亦
區別を置くことが必要でなければならぬ、
即ち首都と他の大都市と之間に於て區別
することが必要である、而も之を區別すべき
ものであることを朝鮮の間々宣傳するの
も必要である、諒解せしもろことが必要
である

之を要するに人口百五十萬以上、廣東二重以
上す涉る所の大都市中ノ種ても、東京の如き
は人口二百十七萬を算ふる首都たるに於て、
他の大都市、比一倍と十倍の人口を有し、

其年額豫算亦億を以て算す所の此東京を、之を他の都市と同一制度の下に置くが如きは、經濟の上から言へば右當者か金失ひと同一結果を臨ることは明かである、されば現に最近実験して居ることであつて、而も其障に乘じ職業的政黨家が横暴を逞うして市民の害を及ぼしてゐる、人或は之を以て政黨の横暴なりと評する者はあらけれども、唯政黨の横暴のみから来たのである、實に市民が無頓著なることを亦其因を國してゐる、

六、由来自治其物は官權善くは黨派間の壓制を蒙らざる所の獨立組織であると云ふ以上は、官權の壓制を蒙らざることも黨派の蹂躪を受けることも、終て自治体其物が悪いのである、従つて官權や黨派のことを彼是れ言ふべき譯のものでないと考へる

地方資協調と自治の本傳

又一方から言ふと今日は資本と勞働の問題が國んであるけれども眞に自治的生活の徹底したる都市殊に首都に於ては、此事の實用且つ不經濟なる爭議を避け、兩者をと

て圓満なる融和の生活を爲さしむることも出来るのである、陸つて彼の國家的法全の権威を本尊とした所の官治とは全く其精神を異すすり別箇の本尊す、即ち地方の諱解と協力を本尊とする所の自治を建立することが最も必要な事ではないが、そちで此意義を於ける自治制度の改良と自治制の協力を促進し、之を自治制度に對する浪费政策の躊躇と、官治の壓迫を防止することが刻下的の急務であると信するのである

東京市の自治に對する余の期待

東京市の現状は恰も靴を提げ駆除け無盡を取
りに来た連中の集会した殖民地と同様である
から、之に向つて到底自治を望むことは出来ないとか、或は之を對して自治制の效果を擧げ
んことを期待するは本了縁つて魚を求むる方頃であるとか、或は又東京市民は全然自治
治の能力を失つてゐる、東京とは由来自治
がない、東京とは「デモクラシー」がない、官権に
の臣民は元來「デモクラシー」のないものである、と
云ふが如き議論も往々聽くのであるが、併

なづら三千年の歴史を有する日本國民、三百
年の歴史を持つ所の東京市民は過去に於て
專制政局の下に支配せられたることは言へ、
文化發達せし聖代の今日に於て「デモクラシー」
ないことはない、自治即ち「オートノミー」のない
筈はなし即ち東京は日本帝國の「デモクラ
シー」の中心であり、同時に又た日本帝國の自
治即ち「オートノミー」の中心である、随つて「デモ
クラシー」若くは「オートノミー」の大學生棲を建立
すべき地點は東京の外ではあるのである、而して
主 余は此大學に入つて自治を學びつ、あるのであ

主

る然るに余は偶ま官僚生身であることが人目
を惹く為めであるかは知らぬが、未だ自治
の真髓を學ぶことを得ず又た其教へを
受けずるに先つて、却て官僚の惡辭若くは
其糟粕の殘留せむを見て覺えず耳目を
蔽むるを得ずる状態に在るのである、是れ
蓋し余の修養の足らざる點もあらう、若
しそれ思ひを潜めて詳細に觀察したならば
必ずや事実である日本「デモクラシー」、東京
自治の真髓の取つて以て學ぶべき材料が存
在せらるを發見するであらう、又市會議員負

其他の市民中、余之を教ゆる先覺者も控
え居らるゝことであらうから、余は之了
師事して其教へを請まんと欲するものであ
る

去りず、さりとて一言す如く、底無し袋
子金を入れが如き浪費政策を算一の除去
するに非らざれば、假令如何なる新経緯を
以て之に臨むも、宏費徒らに多くして效果
毫もと響らざるものである、而して新経緯
が立たなければ立たぬ程浪費は愈々多く
くして效果は益々甚きの理である、然らば之

高下處するの途如何と言へば即ち底無し袋

底を作ることが何よりの義務である、而して之
と同時に新経緯を立つらが為め、一方より於
て完全なる調査研究の後事すべき機関
を設置すべき必要がある、斯の如くして始
めて經濟的且つ科學的に諸般の事務が
處理せられ、而も其能率が又大に増進す
るのである、此事たるや誤何ぞ容易なるもの
はあるが、余を以て之を見れば往々世人
が注意を此点に拂つたものは妙ないやう
である現に市に於て然りではないか、國に於

ても亦然りではないか、と余は思ふのであつて、此事も一言して茲了教を請ひたいと考へるのである。

浪費政策に對する後藤式節儉法

即ち個人の生活に於ても、會社の營業事に於ても、其の又自生活若くは國家生活に於ても、悉く其軌を同うするものがあるのである、先づ之を會社の營業事に於て見れば、如何なる會社と雖も浪費の絶對はない、會社は無いのであつて、唯其浪費の率が一二割と止まら、會社なくば、其會社は非常に整頓したる會社

と言ひなければならぬ、或は極めてエキザクトと評したならば、五割の浪費は皆なあると言つても過言でないかも知れぬ、而して浪費が五割以内となつた所のものが利益を産ものである、余は敢て哲學者の蘋野俊ひ人間は無用の事を爲して喜んでゐるものであると云ふが如き見地から論ずるのでなくして、事實上の立脚点から言ふことであるから誤りは大いと信じてゐるのである、諸會社が五割の浪費、あるいは三割と止めんとして、経費を一節減すれば其

目的を達し得ると思ふ力は大なる間違ひ
である、官廳でも會社でも能くやることである
が経費節減は浪費節減とはならぬもの
である、茲に百萬圓の経費を支出する會社
があるとする、其中五割が浪費に属するもの
とすれば、三割の経費節減をして七十萬
圓としても、年収七十萬圓の浪費の五割は
附纏として五七、三十五萬圓の浪費は併、もの
である、浪費より弁銭を加へずして唯経費節
減を事とすれば國家の政治ならば産業が
萎靡する計りである、會社の経営ならば官

業が不振、陥るのである、斯の如き節減の仕方
は眞の節儉でも節約でもなく、昔の言葉で
言へば若輩であるから知れぬ、
とあて然らば何を以て此浪費を糺止するか
と言へば、唯科學的執務と科學的調査
とを依つて其能率を向上せ（もろの外に途
はないのである、前例の會社の場合を於て
科學的執務と科學的調査とを依つて能
率を増進し、會社の利益が増加したと
たまれば五割の浪費は或は四割とも三割
とも節減せられたと同一の結果をえたすの

てある、然るに能率を増進することを圖らずして唯浪費のみを節減すれば、成程時は節減されやうが又忽ち元の通りに増加するものである、それ故に科學的調査研究の金を費やすことは経費節減の根本義であつて、此以外は何もないのである、神算鬼籌といふことはあるが、人間で生まらず謀は如上の外に何物もないのである、され實に不肖後藤式の節儉法であつて而も現代式節儉法の要求する所に適應したるものと信すのである、世界大戦争の開始す

キ
終息する色、先進國にて承認せられ訓練せられた所の節儉法なるより軍竟此以外のものでぬものである、

調査機関設置の必要

是に於て余は裏に大調査機関設置の議を提唱した、然るに一般國民をしげ之を諒解せむることは故の難事といたのであるが、幸いに我賢明なる内閣諸公並ニ貴寮両院の議員諸君は余の微衷の在所を諒じて既ニ賛同せられ、又た是ふどう賛同せらるゝを信するのである。

併するや代に於ては社會的活動に關し指導階級を経て居る所のものは内閣諸公議員諸君とまか如き肩書きのあつ賢明なる識者多く

も、更ニ偉大なる見識を有して居る者がある、之を何人かと問へば即ち首府若くは都、市に據つて居所の人氣ある、是に於て余は如上の希望を実現するものに、國民に諒解せりむる、もも寧ろ市民に諒解を求めて方か、或は早く達成せらるゝと自覺するに至つたのである。

加之既ニ前段ニ述へた如く、我東京市は現代文明の日本の中のものであつて、且つ日本の「モラシ」又は「オートミー」の多幸なる生活の中心である、而して是全國本東京市を置つて他三之

匹敵すべきものなきを思ひ、余の情抱する調査機関設置の意見か、此東京市民の賢明なる考へ慮に依つて一日も速に実現せらるることを望むのである

余の就任の覺悟

余は畢竟よも言ふ如く、「テモクラシー」と「オートミ」の中心たる我東京市を以て向後の大學校と思考し就ては之に入學を決心した次第である。余の先任者としては余等の先輩甚くは尊敬すべき名市長が居られたことであるから、世上種々の批評や非難もあるが、所謂岡同八日の

議論で、多シヤ市政に悪、缺点があり、親しく内郊に入つて見れば又や良、所もある相違あるが、一様東京市は大馬鹿者と大物巧者との寄在場所である、故に如何世間で言ふか如き悪い事計りあつては多からずと往て此處未て見たのである、所が豈圖うちや所謂自治の眞髓なるものがまた出でなければならぬのである、併し必ず出でなくて違へないと期待してゐる所の望を属して居る所以であるが、併をより以上拘泥したる諸君即ち東京市は底無しや袋であるとか、麻糸を缺いて居る

統一かないどか、浪費はうひたゞひつた点に對たいし、
そしは虚構うきくのうに、事實じじ相違あらわたと信しんする
人ひとかあつたたるよ、金かな一々余まの言ことうらうらうる
を立たてすま的確てきなう資し料りょうを有あくこゑ
が、許ゆさせり直ただす者ものを増ふと云いふ志し人の
誠まことの如ごく余まとと甚ひた面おもてくないことであるが、
之のを言こと明あらわすことは避けさけたいと思おもふ、併あわし
其その一い斑はんを擧ひげ讀よ者ものをを全ぜん豹ひつじを憲けんに羅ら
ががささすすものものを示あらわすといふ考かうへる

社會局に就ついて

最近東京市で新設しんせつされた道路局と社會

三五

局に就ついて言ことふをうや、社會局に就ついては道
路局の砂利事件さりじけんの如ごくことは記きらないせれ
ど、其行政上ぎせいじょうの執務しふむの亂脈らんないに至つつは、
決きして局きょく其物ごものを新設しんせつ係けいか故ゆゑに諸事
惣そう頓とんせすととの理由りゆを以もつて弁解べんかくの辭べとと为なすを
得うないついである、大体其出發しゆはつ点てんから、其往路じゆうろを
將まつ又また其事務じむ進行こうりんに必要ひつひつな機関機関運用うんよう
の上じょうに於おて非文明ひみやう的てきの点てんが多くあるを遺憾いげん
とするするのである、

茲こゝに其その一い例れいを舉ひく。遊興稅ゆうこうぜを徵收せいしゆし之に
依よて社會事業かがくじぎょうを行おこなふことことある。

係し斯の如き旗幟を立て、社會事業を行ふことは、黒江、市民の道義と高尚なる人道上の觀念を向上教達せしむる所以の道であると言ひ得るもあらうか、試みに反向せん若し遊興者の減少又は絶無となつて、社會事業に充てへき賊漢も亦減少矣とは絶無とあらうとまづは、社會局は其社會事業を縮小又は全廢するのであらうか、黒江は然らずは是れ東京市民を侮辱するものではなか、而し之を以て侮辱されたと思はぬ、東京市民も亦胸もへきものではないか、是に於て三三

走 金は東京市民の名譽の侮辱せられたるに對之が因復を圖るゝとするものである、而して東京市市長は、余の所設に對して反対するや贊成するやを見し、其道義觀念を測るよ尺度とあらざると歎するものある、

社會局は其出兵に於て如上の如きから、其他文書の藝術に付して、出納會計の往路に微しも遺憾の尤からず、而して義捐寄附金に仰せられた所のものか、義捐者寄附者のものと思はず者あらずに至つては、社會局自ら人道道義を破るものではないかと

思ふのである、其実例を興手けんとするなどは
多々あるのである、社會局なるものは社會
局の出入商人に向つて慈善施くは博愛
の立る主義を実行すべきものではない、全くは
此一言を以て其全般を掩せんとするのである、
而し其出入商人は社會局に奉職する所の
吏員は有力者の養育院を形成する爲めに
設立したものではなく、かと人をもし疑はず
のである、而しこそを廓清せんとする所の
同一の是れ有力者の系統を討伐するもの
を模倣すむじめたりと叫ぶに至つては
毫

平

築付の狗堀みゆゆの感があつてある、
抑々社會局は新設の機關たゞれ故に築
立も良、但僕が出来た筆である、昔に因、
ふさる代の良いものか出来た筆である、
然しに唯西洋の模倣を为すに止つて新知識
識を加ふた筆の如きものかないかく、其仕
事の見ゆるまのたまのみをもとすが、東洋の
筆と競争するに止まらずである、而して監督
官廳の東洋筆も此種の智識に欠乏
することは天下無類である、然らば其上に置
督官廳たる内務省は如何と言ふと、是亦

以て此強力の力がわざとあることを明言するに
憚らぬのである、若し夫れ内務大臣が茲々
來たあらば一々余は其点を書いて指摘す
ことが出来るのである、余は敢て斯る事を
喝逐其有力を誇る所ではないが、惄も
ざき状況下在る市民の方に其極端を叩いて盡
くさなければならぬ悲憤たる境遇下余
自身が立つて居るから、敢て之を言ふので
ある、孔子の所謂

實に己もを得やうに出づるのである、顧くは
余の心事を諒とせられたい、

道路局ニ就いて

次は道路局の事である、是亦新設の局である、余が就任の當初、道路局長曰く先づ閣下來つて茲に事を為さんとするれば改善改革を企てなければならぬ、其改善改革の初めとして此虜敗したる形勢を一掃につければならぬから罷免休職は固より已まを得ざるものである、而して是れが實行を完からしめんが厚めに先づ隠より之を始まるのであると吉つた、此言葉を聽つて

四四

自分は驚いた、道路局は一体何う去ることをして居るかと思つて視ると殆ど何もしてゐない、道路に對する知識もない、道路に関する調査研究の結果を職員に示し、共に興に協力して之を實行せよと云ふ計画も何等存してゐない、况んや東京市子於ける諸般の道路材料に関する科學的調査研究を遂げたる「モゲル」とか標本とか古ふが如きものは尚更何處にも無い、是が矢張底無

袋子金を詰めるのと同じ車であつて、而かも此間隙と乘じて悪事を逞つする所の不正の徒が跋扈する所以と友つたのである。

市民に要する了解

其他水道と於ても電氣と於ても下水と於ても、毫も市民をしそう解せしむべき措置は何も友い、其他一私人の家族生活と應用すべき機械の精粗を示すものがあるか、又所謂危険防衛の注意の粗密を示

四十五

四十六

すものがあるかと云ふと、何も無いのである、市民と設交渉の仕事をして居り、又文化機関と設交渉の事業をも居る、斯う云ふ事であつたのである、それで又市民の側から言へば水道を使ふよも、道路を掃除するよも、下水を疏通するよも、電除車と昇降するにも遺憾の点が多々、電車の如き交通上何う云ふ危険があつて、どう云ふ損害が各自子来るかと云ふか、如きことよ至

つては、何等注意する所はないのである。自分が不注意であつても自分子は損失が来ないもの、多少の妨げをしても自分で多少へ良いければそれで良い、妨げた報いは自分に来るものであると云ふことを市民に知らしむる方法は執つてゐない、而も職員は昔の民は由於しむへし知らしもへからずであるが、今はさう云ふ時代ではないと云ひながら矢張り知らしめやうとはしてゐぬらしいのである。

其他市役所の物品購入は就いて如
何なる車か行もれて居るか、之を
思ひ出すが、よ嘔吐を催すので
ある。必ずや我高尙なる指導的
市民は思ひ半々過ぐるゆのがあ
らうと考へるから茲と差控へる
こととする。但し言へとあらば余
はいつも言ふのである、決して
余は虚構の言を吐くものでないこ
とを言明して置くのである、

名譽職と小學校教員

次々小學校の事又付いて二三述べ
て置かねばならぬことがある、實
際教員中の或者は授業よりも市
の名譽職を訪問して其知遇を辱
うすることよ苦心しなゐる、而して市
の或名譽職の如き、學校の事又尽力
するのは誠に結構とは相違ないが、
併し公費を以て設立したる小學校
の教員を恵む自己の家庭教師の
やうに心得てゐる者がある、さう

して其名譽職と在る人は教員と恩
を賣り自己の子供の試験奨奵を
多くして貰ふことを希望しなゐる、
同時に教員等は名譽職と在る人
の覺え目出度からんことを欲し、之
の因つて何物が得る所あらんこと
を企圖して居る者も多數の教員
中には往々あるのである、現に先般
余は市内二百人の男女教員を招い
て話をしたる時、其席上に於て或
教員は此等の事実の現存すること

左告げ非常に憤慨してみた者もあ
つ左佐である、之を以て見るも如何と
名譽職と教員間子情実の纏綿甚
かしキムのあるかを推知し得るので
ある、若し其裏面に立つて其間又存
在する所の禍根や、又は其間隙を乘
する所の悪魔は如何なる事をす
るかを考へたならば實子寒心子堪
ないのである、尚ほ小學校の事子就
ては後段よ述ぶることとする、
人の任免に関する方針と所見

五二 然らば此市政全般の改善を如何し
て圖るか、一ヨモ金、ニヨモ金、三ヨモ金
と昔からよく言ふ話であるが、余は從
来より一ヨモ人、ニヨモ人、三ヨモ人と
主張して居るのである、傭人となれば
即ち任免の一事を到着するのであ
る、是れは何人を推測と難からぬこ
とである、自分は市長と就職したな
らばは然此問題と逢着すると覺悟
してみ左、併し人の任免黜陟は冷静
に考へてやるべきものであることも無

論考へてみた、但し或者は人相知るに至
れば情誼自ら其間ニ生じ、仕免の如き
は断行し得らるべきものでないから、
早く断行しなければいかぬと注意
した者もあつた、併し余は考へたの
である、蓋し斯の如き言を為す人は
情實纏綿の間ニ生長し、此間ニ
理路を求める所謂理性ニ隨つて事物
を裁断することを不可能であると
自覺した人である、故ニ情實ニ囚
まねず、理性の命ずる所ニ隨つて裁
判した者、

五四

断し得る自信のあるものは徒らに
車を急いで玉石共に碎くか如き輕
舉ニ出で、は友らぬ、況んや人情よ
り論じても失職者を作ることは
忍びない所である、と斯様ニ余は考
へてみた、

所が一方は之ニ反して盛んニ改革の
一法として免職、休職の一日も速に断
行すべきことを希望し、且つ之を
以て痛快事なりと思つてみた者
もあつた、それで新聞でも針小棒

大手報道して銃を揮ふなどと書く
ためのもあつた、成程銃ゆは要であ
らうか、銃のみではいけない、小刀も必
要である、又た綿ゆせ要である、先
要第一に本人の能否を見、執務の方法
を見る間よ、一日して半身不隨のもの、
一部麻痺のもの、步行困難なるも
の、活動不能なるもの等が映じて
来るものである、けれども直ちに之を慶
分することは成るべく避けなければ
ならぬから、皮下注射又電氣療

五十六

法や「マッサージ」を試して仮令跛を引
いても一日子相當の里程を步行し
得る者ならば、其職子従事せしめ
て従く又よしなければならぬと
云ふ考を持つて居つた、之を見て緩
漫なりとして焦躁つた者もあつ
たが、さうしたるものではないと自分
は考へてゐた、

所が兹より不幸にして司法問題が發
生して東京、其影響ととして仮令
刑事關係を座せざるも、自分の責

任を重んじて職を辞する者がある
と至つたのであつた、けれども自分
は固より市長となる者で運動し
たのでも何でもないから、又其缺
員を補充する心富りの人と富んで
ゐる譯でもない、從來官僚として國
務に従事して居つた關係上、其範
圍は多多少人を識つて居るが、國
務の範圍を去つて自治の範圍に入
つたとき、其自治向きの人を得るに
至つた、其の感想は、勿論官僚系

五九 中の人と於ても現代的の智識と富め、
且つ自治と就いて余と同じく興味を
有する人は澤山あるが、其人一人で
進退を決することの出来ない者も
ある、朋友もあり親戚もあつて、そ
れ等の人々が總て本人と同一意見と
到達し、市民の利害と関して努力
奮励せよと勧誘すべく決心する
迄至らぬものもある、殊々况んや
市とは第一流の商人は市役所の門
に入るべからずと云ふ旗を立て、あ

る位であつて、市は腐敗の巣窟で、此門に入ることは汚泥を以て漬かる、ものである、白衣白色を以て塗炭又座するか如き意味がある爲めに、親戚朋友中には本人の就職を引留むる者が多い、是れ補充又手間取る所以であるが、其人達の憂慮もある無理のない事である、併し此事を以てしても、将来東京市に對する此疑惧の念を一掃し氣分を新たにせしめて、市の吏員となつて自詔の爲

六十め又竭くすることは矢張義勇奉公の一端であると云ふ了解を得るに至らしめなけれ、自詔の前途も蓋し遠遠であると言わねばならぬ、

健全なる市役所氣質の養成

斯の如き次第で官僚す、或は地方より轉仕せしめて仕合を餘儀なくする立場す、余は置かれたのであるが、併し今日と雖も東京市にて仕事をした者は全然官僚でもなく、又地方に居つた者でもなく、生糸の江戸見のみであつたかと言ふと決してさうではなかつたのである、故て江戸見は皆な無能であつるとは言ひない、前段述べる如く東京市民の望む所深く且つ大なるものがある事一つであるが、右の如き始まで市の吏員の採用し

立なかつたのである、故に採用せざりしが爲めに市民の重きを擡がげらるゝのをと言ひ做さんとするは僻事である、

一体どうすれば人が活きて働くかを考へて其方法を講ずることは、官僚と於て上長官として非常に功德であると同一く、自治体と於ても亦然りと思考するのである、もとで市吏員をして最もも有效に働くもろに就ては、先づ以て健全なる市役所氣質なものが出来上るに一たければならぬ、たゞ今の市役所氣質を市民全體が見て、

彼は市役所と奉職して居つた人物であるから、自分の店に来てほしいとか自分の会社銀行に来てほしいとか云ふが如き觀念が起るから起らぬいかは茲に説明を要しない位であるが、小者用人と雖も彼は市役所に居つたから手堅いであります、俺の店で使まうと云ふときに信用を得せりもしこは大なる問題であらねばならぬ、市役所を出されたらし翌日から引請け手のないやうな市役所であつては、市役所とて人を使ふ道を知らぬまでのうち、余は雪つて台湾に在

書

つて部下の氣風を変化せしめた經驗上、市役所の更負の氣質を一新せしめられない譯はないと云ふ確信を持つてゐる、又た余は錢道に居つたこともあるが、現に錢道から出た人で飯が食へないで困つて居ると云ふ人はなかつたのである、然るに今の市役所のやうに罷められた者は使えない方が徳であると云ふ觀念を一般に與へるのは、市役所の使ひ方が間違つて居る、又た使えない者が小者用人ならば吉原遊廓、奉公、往つたのと同様で堅氣の家では使ふのを嫌ふ

のである、是れでは使ふ方の市役所は人を使ふ上に於て罪悪を犯すまであり、使まゝ者はずゞ給金が高くても結局一生の損害である、故に余は此空氣を改善することは非常に便むに當者に金儲けをさせてやることに有ると思つてある

市役所の腐敗した空氣の一斑を茲々摘示すると、市の生々商人の某鉄商があり、此者は或鉄の棒を六十何錢ぐ納めて居る、然るに森岡平衛門氏からは僅々二十何錢で納めて居る、而も前者は保證金を取られてゐない

事拘らず後者は之を取らんである、所が森岡商店のは納入期限が遅れた為めに罰金を取られてゐる、斯う云ふ遣り口である、蓋し斯の如き空氣流の中で育つた吏員は将来如何なる人物となるであらうか、實に空恐ろしく觉得であるまいか、

而して一般の空氣が斯うした腐敗を充ちて居るが為めに眞面目に正當の勤務して居る者までが玉石混淆で、痛くない脇を搜られる結果となつて、其損害は實に大なるものである是は獨り吏員のみではある、或市會議員の

如キは低級取引に足らざる捏造説了冒され
て自分の市長と毛疑を掛けことにならむから、
市會議員亦疑を受けて換事が繰るのは當
り前でないか

實に現在の市役所は低級なる低能者がやたら
事々賢明なる市會議員員までが魅せられて
了つたと云ふのも、健全なる市會議員、健全
金なる市役所氣質なるもが存せず、至る結果
である、若し市會議員として、市役所として正
當なる健全なる氣質氣風が存立てば、市役
所もたゞらば、現て目撃するが如キ不祥事は決
定して起らなかつたと思ふのである、

それで余は市公吏に對しては、甚養成所
を抱えなければならんと考つるのである、是
は年來獨創の施した所であつたが、最近更
未利加が鼎も之の力を盡してゐる、

昂ち茲つ示す所の紐育市政調査會の設
備の如キも之の外ならぬのである
(紐育市政調査會設備材料入り)

小學校職員の進退、就いて

前段小學校の事了就いては更に述べまこと
を一言、して置いた、仍て茲に説くこととする
先の市内二万人の男女教育と會合し、其後

市長は無造作に教員を罷免したとあ校長を諭つたとか傳うる者もあるが、決して余は無造作に斯る事をしてゐない積りである。畢竟も言ふ如く人を罷免することは其當了取つては一大事である、故に局鄰麻痺をみて居つても電氣療法、注射治療、温泉療法を加へて跛を引きなしても普通の行程の歩ける者は其職を守つて貰ひたいと云ふ心懸は失せなかつたのである。所が地方から来た者は學力があつても東京セナの小學教員には成れないと言ふ者がある、

十三十九云ふ者がゐるをうば其言ふことよりもだと思ふ、東京慣れた小學教員が果していつを用達つかと云ふことも考へて見なければならぬ、隨つて小學教員も新造修繕と言つては失禮かも知らぬが、確に養成と講習の場所が必要である、養成は師範院後、一件して良いが、講習は別に市が施えた物でなければ監督が出来ない、それを往かなければ現代的方法でないと考へてゐる、

次に余が市に入つて、市がニ部教授撤廢の旨

心にて居る事、小學校後の増設は一部教授撤
慶の解決の錦であることを知つた同時に「バラ
ック」と不燃質建築物との經濟關係、就
き、又は児童の衛生的關係、就き調査研究
の徹すべきものがないのみならず、之に
關する委員會も出来てゐないことを知つた、
そこで余は都市研究會の同人として掌教し
又大市の顧問として聘した所の佐藤工學
博士より此事を質して見ると、博士は夙に其
邊の事に著眼して居られたので、其説を
聽くと寧ろ余の懷抱して居つた意見と
セナリ

七百一致したことを教見し、且下學術的に余
の著想を有效ならしむることを乞ひて博士
の助力を頼むつてゐるのである、

小學校の建築工就いて

其大要を述べて見ると「バラック」の建築費に二
三十年後の修繕費、其他の経費を加算した
ものと、鉄筋混凝土若くは其他の不燃質
物の建築費と比較すればどう云ふことにな
るかと言つば、前者よりは後者の方が大
きな利益がありヤコツだと云ふことが分かり
掛つて来た、それはかつたが、値段を児童

の数を千人とするか千五万人とするか、而して
之を要する教員負を何名、補助教員を
何名とするか、ヤマトにて教場を一階二階
ト繕ひ、三階四階ト教員の宿舎を造るこ
とに大なりばどうなるか、小學教員生活の完
全なる大成を圖るに就いて如何にするば良
いか、又住宅改良の費用と相俟つて如何にする
れば都市計画と並行すらであらうかと云
ふが如きことも現下の問題である、此等の
問題を解決するまゝで、も調査の半ケ年位
は掛るのである

七十六 余は市長となつてから後、四月には屠蘇酒を
飲んだ、それから流行感冒罹つて三十日保
んだ、五月の内ニケ月計りは斯の如くして
空しく費やし大併すゞら幸い余の許
には得易易からず、助役が三人三位一軒
と成つて余を易けて呉れるので、漸く経ての
調査が足りれば余は誠佛は出来ない譯で
ある、五月間無事の日を送る如く外間か
ら見ええずか知らぬが、内部、外は実は焦
心苦悽、大に将来市改の貢獻すべく應

立としてある事である、飯へ来た者は食を擡
まげと云ふが、最も東京市民が自治の效果
の過去と於て擧げらがるに飯へても、今は市
民の保姆役として半煮火飯を薦める氣氛は
有りぬのである、況んや毒と知つては高更
うである、顧くは此邊の消息を諱とせられ
たい、調査研究の結果確乎たる提案だ了
得れば勇往邁進、市政の為めに最善を盡
くす所で遗漏なきことを心寄り期する
ものである、

七十七

市の経費問題

七八次は経費の問題である、東京市民が社會的
生活を完全にする為めの経費、帝國の首
都として將來世界の五大強國の一つ列す
る帝國の首府として名實共に耻しからざ
る施設經營を完うする為めの経費、之を
計算すると約モ十一億圓計りとなる其
科目は大要たの如くである

(豫算科目記入)

前記の種目中、既に著手せざるものとして將來小
繼續して進行すべきものもあり、又未
著手せざるが爲め是れより直ちに著手す
べきものもある、又初め空むら所を依つて
強制せられて居るものもある、之を合算
すると五千萬圓を下らない、

現在一億三千萬圓の豫算を提出^{シテ居る}から之を合計すると一億八千萬圓差くは
二億圓となる、此經費を以て今後約十年
間進むに非^リやれば全の理想とせら多幸
なる市民生活を完うすること出来ず、又た
キ九

ハ日本國民とて完全なる首府を造り世界
の強國民を此處に優待することも出来
ぬ始末である、

浪費政策改善の一歩

次に重要な問題は税法である、重要な問題の
第一は人であるが之は亞ぐまほは金昂ち税
法でなければならぬ、此税法ヲ付いても矢
張一方ノは学者の組織的攻撃を要し、他
方ノは實際家の攻撃を要するのである、
而してあらゆる建設物^ヲ關する所のよし
亦科學的研究即ち理化學の考慮を經

なければならぬものもある、而して此事は
常に制度の改善を以て実現又た自治行政
の専門家を要する、都市に対する至難
なる問題中には社會問題を含もが故に
社會學學者の攻守する候たなければならぬ
事がある、斯の如くして衆智衆能を集め、
其得た所の力を大顯することが必要である、
是工程を「オルガニザチオン」即ち編組が極めて
必要と成つて来るのである、

十二、底無一儀はいつ金を以て詰まるであらうか、
實に亞然たらきるを得ないのである、併
し若く人ちうて底無一儀の底を作り、左
様な手段を執ることは不思である、人物も
要らぬ、編組も要らぬと云ふ說を有する者
があつたならば、それは現代的社會に対する
新發明である、余は説いて教を請むんと
欲するよである、

現に絶育つては畢竟一言すらぬく、十年
前より有力者の協力の依つて成つた所の

と称する調査機関があつて、常に経営市
の為めのみならず其他の都市の為めにも調
査の勞を執つてゐる、又た國とては大戰
後、米國とれてヨリ亞米利か科學的調査
機関を設けたと云ふことが、四月二日の國
民新聞に掲載されてゐたやうな消息
である、故に此種の設備は缺くる所があつ
たならば所謂戰勝國も戰敗國の後塵
を擡せねばならぬことになり、而して東京
市の現状は如何と言へば隨分論者甚人アナクロに
乏しからぬが、其論する所のものは時代錯

合

誤を咎もとに急且つ詳一毛不拘らず、斯る
点を付いて設備なきこと、其設備の必要
なること等を一言する人がないのは、市民
の耳つて幸福たりや不幸たりや判断
も若ものである、唯後らに權利と義務と
をかき取らすものは寧ろ余は開散の遊戯
であるまいかと思ふのである、

そこで斯の如き機関の指示する所へ従つて
浪費政策を改め、十一億圓を最も有利
有效の使用する途を講じなければなら
ぬと考へる、

市の財源問題

儲十一億圓の中又も道路の如きは約五千円と號して居るが、されば七八千円は掛るやうである、又は給料を入れたならば結局一億円の仕事である、

市内の橋梁は永代を初めとして電車の通行せるものは、一つ近市民は安心して通過が出来ると思つて居るであらうか、電車は日々重い物を載せて引つ切りなしに通つてゐる、

四十六

今の俗で放任して置いては市民は交通上地獄の穴を掘つて其中に落込まことを知らぬものである、何事か起つたときよ駆ぎ立て、跡の糸である、當局者も其時が来る迄打捨て置いて構わないと云ふ筋合のものでない、然らば道路と橋梁を東京市の負担とする又付いて其財源を何處より求むべきか、交通税の二百万円を市下附せられんことを望むべば

ウヌとが、其他市の二千何百万坪の
地面の中で、殆ど其半は陸海軍
を初め官有地である、之を交附して
貰ふとか、富豪の持つて居るもの
を開放して貰ふとか云ふやうな單
純な事を以て之を慶理する譯より往
かないが、之を適當に慶理し、又
と共に自治体の幸福を増進し、又
國家をして相當の施設を有さしむ
ることが中要ではなかろうか、茲より
東京府なるものがある、是は官廳

足である、東京市なるものがある、是は
自ら廳である、然るに東京市民の負
担する所のものは東京府の歳出二
千円の半千六百万円である、而して
之を市 자체の負担と合算すると市
民は五千万乃至六千万円の負担をし
てゐることとなる、是れ固より東京
市民として負担の最大限度ではな
いのである、併なから或一部の國
従つて見ると最大限の負担をして居
るのではあるまいかと云ふ感も起る

である。但し大阪市民と比較すれば東京市民は負担か一円十文又は軽くなつてゐる。故に若し東京市民の負担を大阪市民と同等の割合すれば二百万円の金が出来る、されば立派利公債を募るとすれば、數も一千円、ピットの重利法で返還すると頗る巨額なる公債を募つて還へすことの出来る餘力がある、斯う云ふことあるから直ぐに實行の取扱つたならば良さうなものである。

九十
か、併しそう云ふことをするから場富りの政治家はいかぬのである、なぜいかぬか、それは即ち根本的の調査研究をして、此餘力二百万円を以て一千万円にして使ふか良いか悪いかを考へなければならぬ、余は他に税金を攻究してゐるが、今それをしてゐる機會でないけれども、兎も角東京市民が十億や十五億の負担不堪へないと諭することは市民を侮辱するものである、同時に其負担を以て将来

吾々の子孫の幸福を増進する如き許
画を立て得ないならば、是れ市の
當局の責任であり罪悪である、若
しそれ計画甚宜しきを得ずして更
に浪費政策又陥つたならば尚更重
大罪悪である、斯う云ふこととする
である、

九十一
是は市民諸君と共に大に考慮を要
すべき問題であつて、此問題が暮月
の間子解決か附くならば寧ろ奇蹟
である、要するに道路橋梁の例を

九十二

取つて前段述べたる如く、之れかあり
に一億円の経費を要するならば、
其賊源を何れ又仰ぐか、公債支弁
の法に依るとすれば、幾らの賊源か
あれば幾らの公債か、暮集し得らる
が、深思熟慮を費やすべき真か
諸方面又多々あるのである、
若し云れを其日暮りしで何日間か
を面白す可笑しくやつて行く丈り
のことならば、別に心配も無用であ
る、尚ほ之又就いては市民諸君の

指導階級と在る諸賢の御意見を
大体伺つて、さうして細目と改つ
ては大に討議を凝らして実行した
いと云ふことと云今成つて居るのである、
糞尿の廃分と就いて
尚ほ述べべき事は多々あるが、最後に
糞尿問題が盛んに論ぜられて居る
から、之を就いて一言を識せり、
市は曩に三百七十一万円を投じ三ヶ年
計画で硫酸安母尼亜製造所を造り
之を依つて市の一部の糞尿の始末を
九三

九四

附けることよ成つて居つた、
之を新市長が来て撤回した。就ては
之を代るべき何か大々的の良いものか三
十日を出でずして現されさうなもの
だと考へて居つたが未だ實現しない、
今よ夏よ成つたう大麥ではないか、
市長何をしてゐる、と云ふのが市民一
部の議論である、

他の一一部は硫酸安母尼亜も何もない、
今自家の廁か問へてみると、共同便所
が不潔か、都門の玄関口とも云ふべき

各停車場の便所々へ不体裁極まるごと
子なつてゐる、
理窟はどうでも良いから早く始末
して莫れと云ふ諦である、

九十五
係し硫酸安母尼亞製衣造の計画は仮
よ完全なるものとして三ヶ月先き
子ならねは用ひ立左めのである、それ
子硫酸安母尼亞の値段が一噸よ廿二
五百円し左とキと百五十円よ下つた今
日とは市民の負担が大麥よ達ふ、又
左「ケミカル、プロセス」でやるから間

九十六
違ひないと思つてゐ、それ子も幾尋
もある、市で計画せんとし左ものよ、就
いて見て機械學者、熱學者、化學者
等が一致團結して攻穴し左様よかな
い、余は此人達よ別々よ達つて腰のて
見るよ自分は知らぬ私は存ぜぬと言つて
ゐる、斯の如き個査の練れを居らぬ
いものを採つて、賣り往き以て實行よ
着年の出来るものが出来ぬものが
一考する近々ないことである、石炭
は幾らの「カロリ」のもので金を焚

ければどうなるかと云ふ計算を一も明
か子なつてみないのである、一頃五百
百円台の硫酸安母尼垂か百円台下
落しないとして、現計画の通りよし
て下谷湊草木對して實行するが
此損失が七十万円である、況んや百円
台も下落したとすれば其損失は愈々
々々増大する次第であるが、さう云ふこと
を責任ある者がやれど、やれど
いかと云ふこと考へ友いで、撤回不
可を諦めるのは是亦閒散の遊戯

九十六と評するの外はない、
云ひで根本的解決法は甚張
科學的調査研究を経た上で決定
すべきことで、勘定なくとも一二年を費
やし、相應の組織機関を以て慎重
によ研究しなければ軽率と看做する
ことは出来ないと考へる、

應急策

根本的解決法は以上の通りであるが、
應急策としては汲取法を完全ます
るより外はないのである、然るに農

告する途かありさるなものである、此等の事は努めて其方法を講じ双方に完全なる諒解を得たいものであると云ふことを日夜苦心して居る次第である、

家子於ては人送肥料の使用が盛んとなつて来たのと、農家の急業と、又件要は應じて義もも八金か取れるので焦せる氣味のない為めに、此役取り運搬の事か從前の如く為す能むざるに至つたのである、係ながら斯の如き車態の修で推移して従くと東京在住の市民は非常的な痛苦を増むが如く、年々の慣習と改善生活との間の激変を慶して、生活困難の種子を農家子生ぜしめざることを農家子勧
ナム

是か糞尿廐か子對する大目であつて要するよ今日は應急策を一刻も早く實行し、根本策は専門家の調査攻充を俟つて着手する考である、
多く餘談を渉ることであるが余は三
糞尿問題子闇する一奇縁

十有餘年を隔て、東京市の糞便屎向
題より再び逢着するのは奇縁と考
へる、

明治十六年余は名古屋より東京
に轉仕して来て内務省衛生局に奉
職して居つた、所が虎列刺流行の為
めに東京の下水の關係、糞便屎の關係
ふ付いて端々よく攻究することよろづ
だが、其當時東京府衛生課長長
谷川泰君は余の友人として又先輩
であつたので、同君と語つて糞便屎の
百一

百二 調査をした、塵埃の調査をした、所が
糞便屎五十万円、塵埃二十万円の價格
がある、就中塵埃其物の値段よ
りは其中子色々良い物が混つて
居つた、最近聽く所によると塵埃
の性質が悪く、つたと云ふことであるが
是は生活状態が窮迫して來たため
よ捨てるときより注意する結果であ
る、鬼より其當時糞便屎が七十万貫
あつた、そこで之を以て東京の下水改
良費より充てた

長谷川君の助力を得て一つの成案を作つたのである、それで之を提案せらるゝと云ふとき又沼間守一君君が職入んで非常反対した、市中の差配人の歳晩の餅搗を中止すると云ふことは残酷なことである既得の権利を害するもので容易ならぬ事である、それならば地主家主の負担とすれば良いではないか、斯う云ふのが自分等の主張であつた、おれが永久に差配人の所有するべきものでめ度し、地主

家主の所有するべきものでもなくして、却て之が有めよ市民か若むこともあるから、今よしてやらなければいかぬと云ふことを主張して非常に急迫の勢ひを以て時の局長長與専齋氏を苦め左ゆりである、長與先生は自分に命するにもの少し寬やかにせぬかと云ふことであつた、亞いで長谷川泰君を報んで後藤の説を餘り急激にやると云ふと騒動を起すから、どうか君からさう云ふ風

言つて世貿ひた」と言つた、長谷川君大に怒つた、其時之に加勢したものは福澤諭吉先生であつた、先生は長谷先生の無二の朋友であるお拘りず、長谷御生局長の唱ふる所とは反對の意見を以て、長谷はあるべくなことを言ふが、遣り給へ、招問か反對を唱へて、僕が新聞で君よ加勢するからと言ふれど、其當時福澤先生は時事新報の主筆であつた、今から考へると三十八年も昔の話であるが、

百五

百六

結論

さう云ふ事もあつたのである、

斯う云ふ譯のもので、委嘱問題は昔からなやく至難の問題である、學者の説き聽くと熱き以て之を處理するが、ハーテリヤーを以て之を處理するか、化學的作用を以て處理するかの三つある、アロセツスは何れよしも良いけれども、之を實行するに付いては、經濟の問題が之子伴でござるき得ないので、容易の事でない、且

つ臭大氣の爲めに作革地附近の者は
迷惑をするから、是亦考へてやらな
ければ、本書の個人の文明的生活の安
定を得左愉快なる生存を爲すと
とか出来ない、此處が苦心の存する所
で、余は三十餘年前から多大の関
係があり考慮をして居る譯である
から、自分は市長の爲めに計るに
付いて其親切と熱心は決して人後す
落るやうなことはしない様りである、
余の知人中此問題を解決する者は斯

百

くするより外は途はないと言つて照
會して来る人もあるが、或る政治家
がルーソーの民約説を讀んで天下
是より外の政治哲學は友いと言つ
て氣狂ひの如くなつたと同じく、取捨
撰擇を誤つては大間違ひである、
故に此問題の如きも慎重なる調査
研究を加へ左上でなりれば一朝一夕
の決定し得べきものではないのです
る。其他橋梁、道路、地下埋藏物、水道

下水、築港、住宅、交通、地下鉄道、電車、運河の問題等、算下へ来れば枚舉するに遑もないが、如上の方針によつて調査を進め、實行する移り、以て市民の福祉を増進し、之によつて文化的生活の幸福なる安定を得せしむるに就て、最善の努力を爲す覺悟である所を、冀くは余の微衷の存する所を諒とせらるんことを望むものである〔了〕

〔大正十年四月九日〕

